

2009年3月期 決算説明会



トヨタ自動車株式会社
2009年5月8日

将来予測・インサイダー取引について

本資料には、当社(連結子会社を含む)の見通し、目標、計画、戦略などの将来に関する記述が含まれております。これらの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報に基づく判断および仮定に基づいており、判断や仮定に内在する不確実性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、将来における当社の実際の業績または展開と大きく異なる可能性があります。なお、上記の不確実性および変動可能性を有する要素は多数あり、以下のようなものが含まれます。

- ◆日本、北アメリカ、ヨーロッパおよびトヨタが営業活動を行っているその他の国の自動車市場に影響を与える経済情勢、市場の需要ならびにそれらにおける競争的環境
 - ◆為替相場の変動、特に日本円、米ドル、ユーロ、豪ドル、カナダドルおよびイギリス・ポンドの相場変動
 - ◆経営陣が設定したレベル、またはタイミングどおりに生産効率の実現と設備投資を実施するトヨタの能力
 - ◆トヨタが営業活動を行っている市場内における法律、規制及び政府政策の変更で、特に貿易、環境保全、自動車排出ガス、燃費効率、安全性の面などにおいてトヨタの自動車事業に影響を与えるもの、または将来の訴訟やその他の法的手続きを含めたトヨタのその他の営業活動に影響を与える法律、規制及び政府政策の変更など
 - ◆トヨタが営業活動を行っている市場内における政治的な不安定さ
 - ◆タイムリーに新商品を開発し、それらが市場で受け入れられるようにするトヨタの能力
 - ◆トヨタが材料、部品、資材などを調達し、自社製品を製造、流通、販売する主な市場における、燃料供給の不足、交通機能のマヒ、ストライキ、作業の中断、または労働力確保が中断されたり、困難である状況
- 以上の不確実性および変動要素全般に関する追加情報については、当社の有価証券報告書または米国証券取引委員会に提出された年次報告書(フォーム20-F)をご参照ください。

インサイダー取引に関するご注意:

企業から直接、未公開の重要事実の伝達を受けた投資家(第一次情報受領者)は、当該情報が「公表」される前に株式売買等を行うことが禁じられています(金融商品取引法166条)。同法施行令により、二以上の報道機関に対して企業が当該情報を公開してから12時間が経過した時点、または、証券取引所に通知しかつ内閣府令で定める電磁的方法(TDnetの適時開示情報閲覧サービス)により掲載された時点を以って「公表」されたものとみなされます。

1. '09年3月期 実績

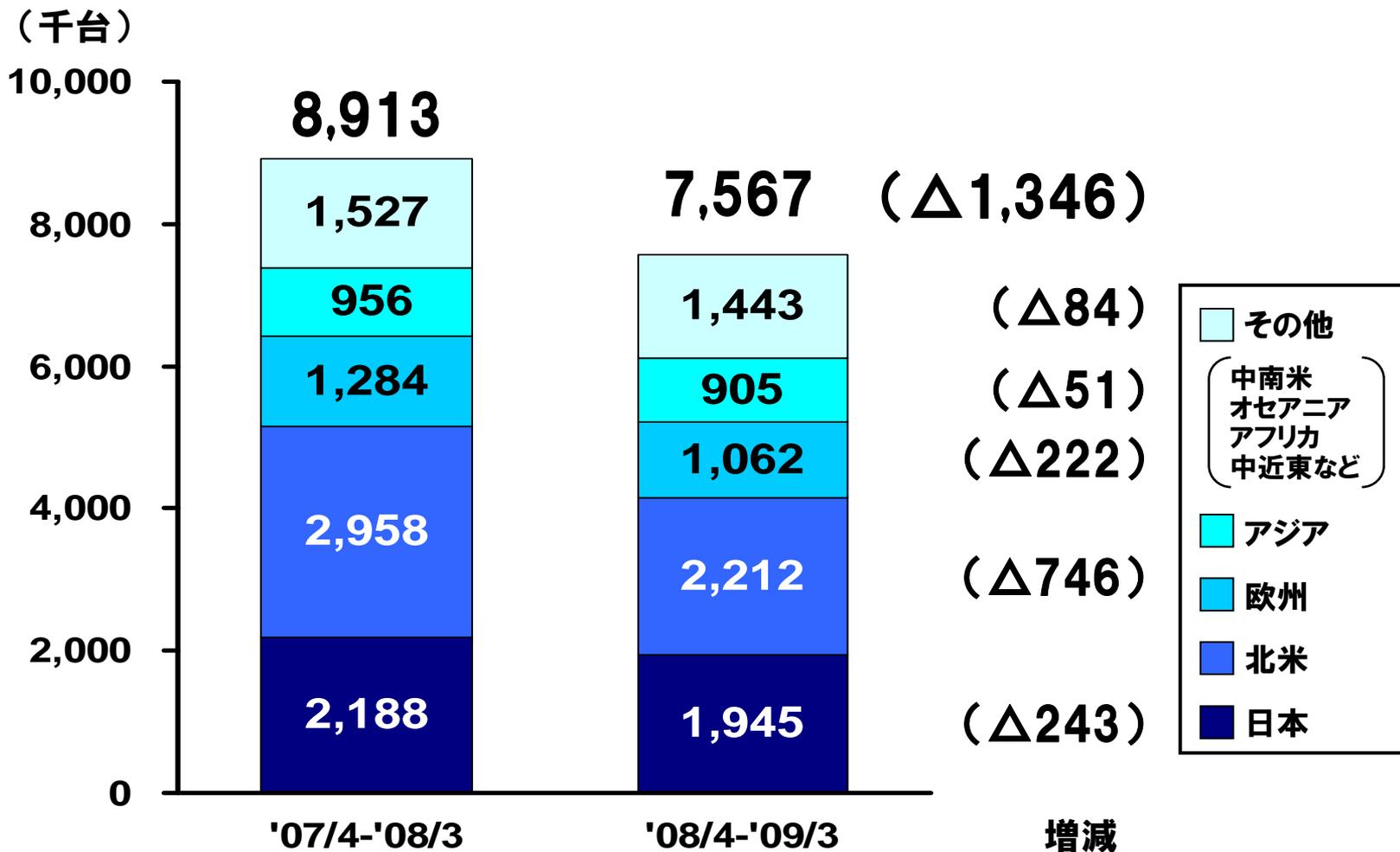
2. '10年3月期 見通し

3. '10年3月期 緊急収益改善の取り組み

4. 今後の方向性

5. 株主還元

連結販売台数



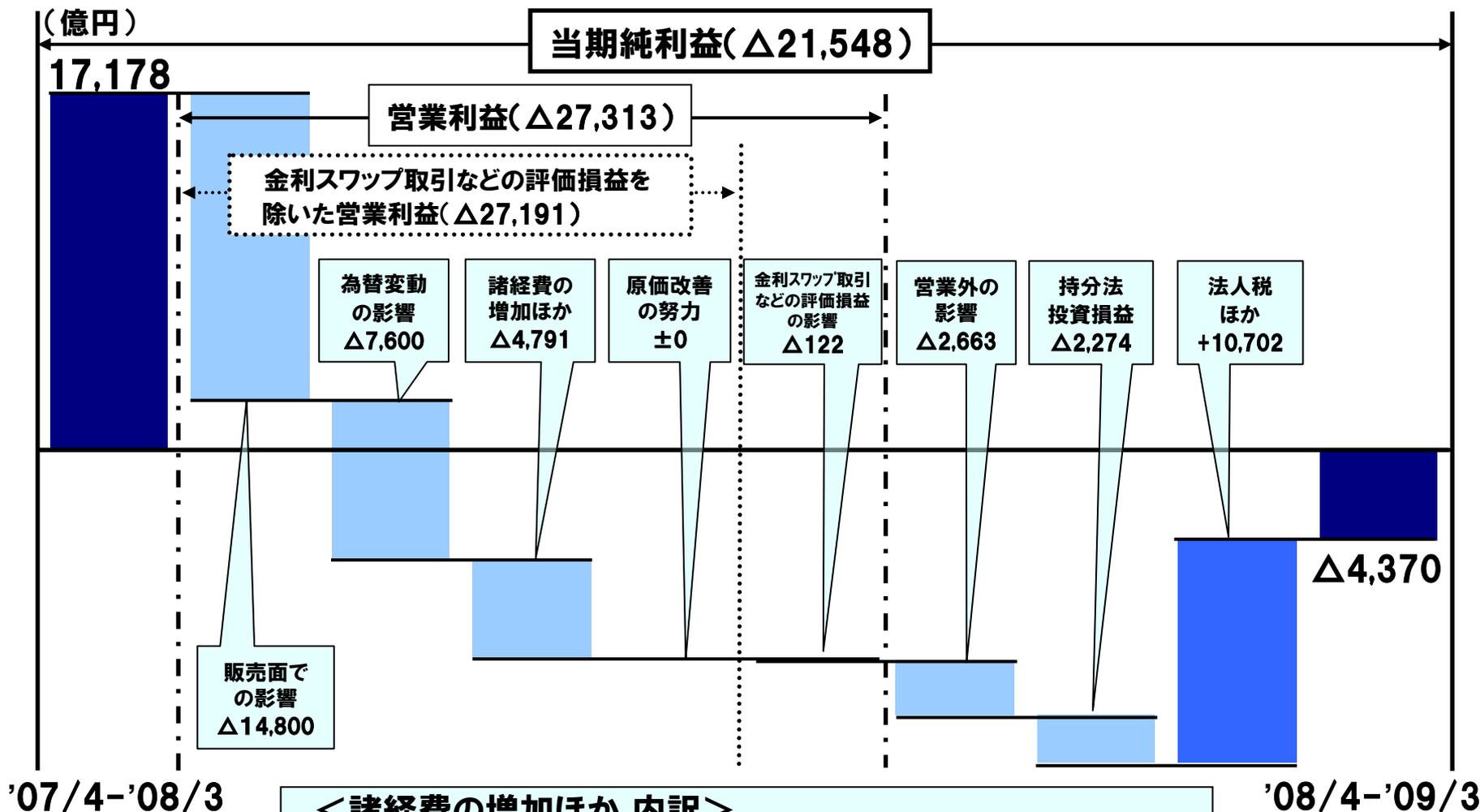
[9,430] [8,327] [$\Delta 1,103$]
 []は総販売台数(小売)

連結決算要約

(単位:億円)

		当 期 ('08/4-'09/3)	前 期 ('07/4-'08/3)	増 減
売上高		205,295	262,892	△ 57,597 △21.9%
営業利益		△ 4,610	22,703	△ 27,313 -
税金等調整前 当期純利益		△ 5,604	24,372	△ 29,976 -
当期純利益		△ 4,370	17,178	△ 21,548 -
為替レート	ドル	101円	114円	13円の円高
	ユーロ	144円	162円	18円の円高

連結当期純利益増減要因



＜諸経費の増加ほか 内訳＞

減価償却費および 設備関連費用	△904	研究開発費の減少	+548
労務費の減少	+1,088	その他	△5,523

'09/3期 緊急収益改善

各地域の市場ニーズに対応した
仕様設定・仕向地拡大による拡販

緊急VA活動

新工場プロジェクトの
中止・延期・規模縮小

生産調整による在庫の圧縮と、
労務費低減策の実施

一般経費の徹底的な削減

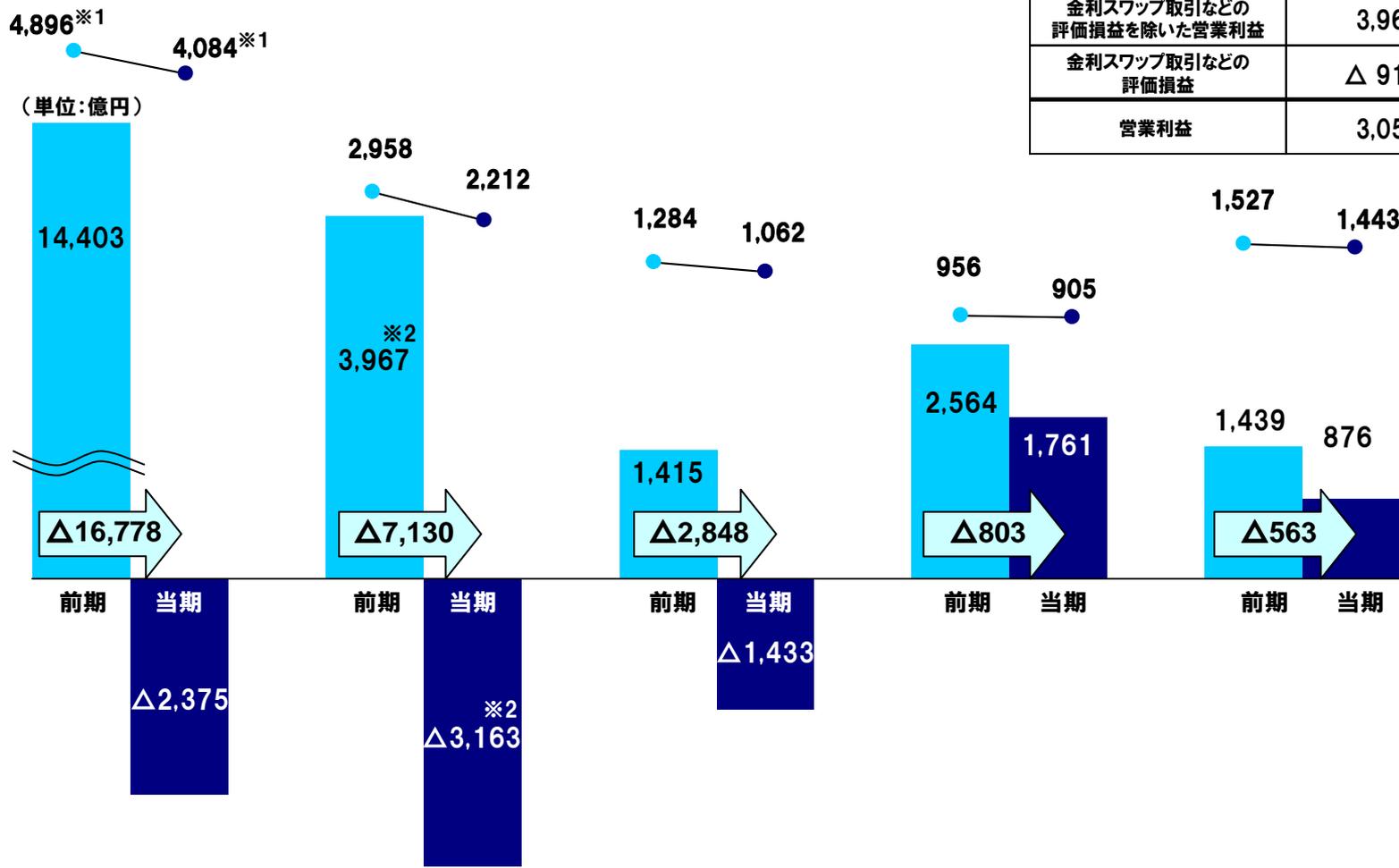
'09/3期 収益改善実績
約1,300億円

所在地別営業利益

【連結販売台数】(千台) (※1 日本は輸出台数を含む)
 (※2 北米のみ、金利スワップ取引などの評価損益の影響を除く)

(単位:億円)

《北米》	前期	当期
金利スワップ取引などの評価損益を除いた営業利益	3,967	△ 3,163
金利スワップ取引などの評価損益	△ 914	△ 739
営業利益	3,053	△ 3,902

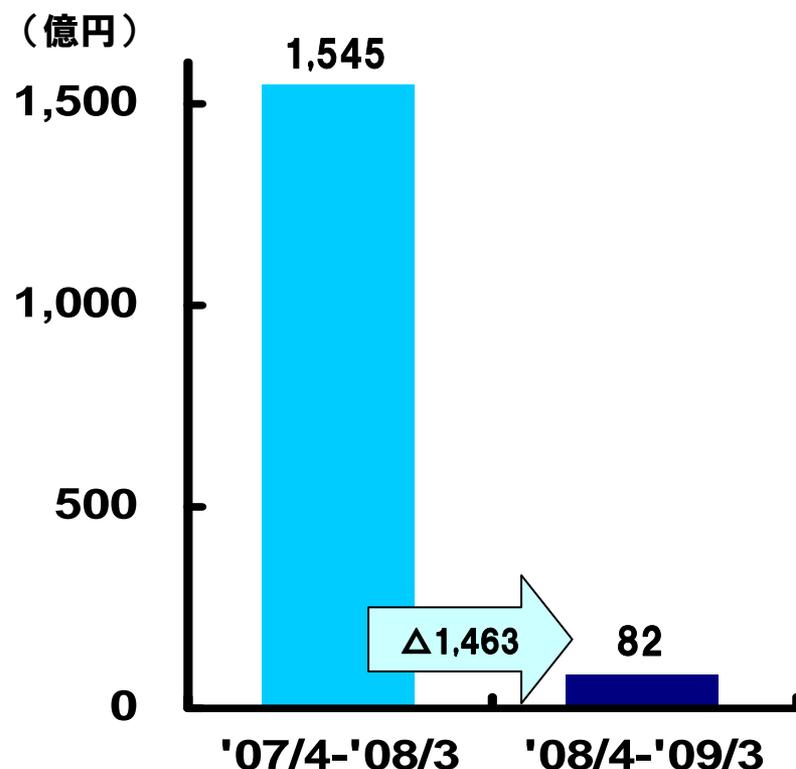


《日本》 《北米》 《欧州》 《アジア》 《中南米・オセアニア・アフリカ地域》

金融セグメント営業利益

金利スワップ取引などの
評価損益の影響を除く

9

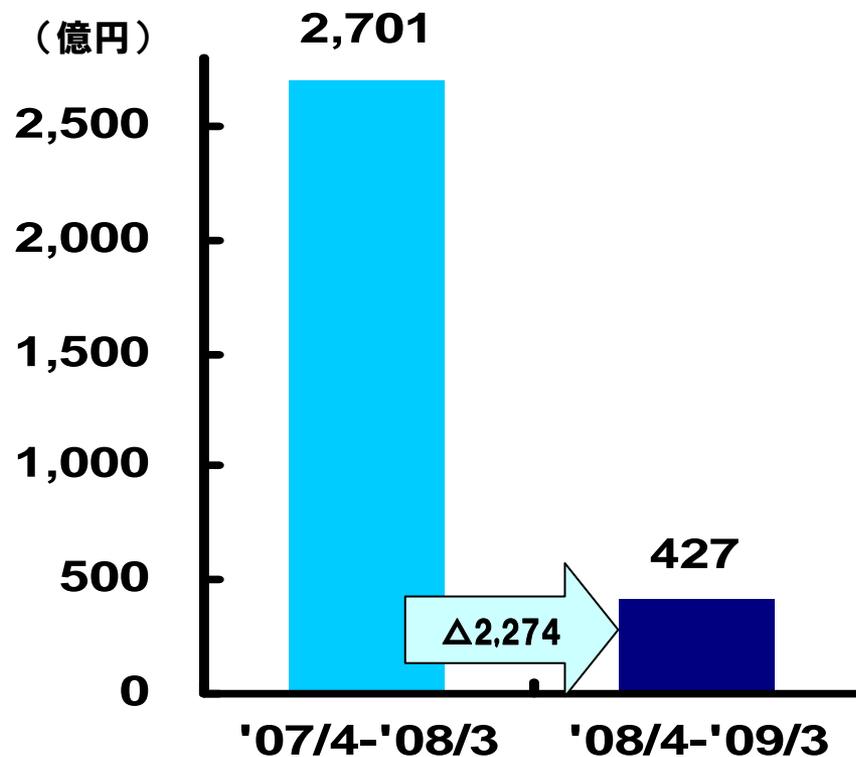


(単位:億円)

	'07/4-'08/3	'08/4-'09/3
金利スワップ取引などの 評価損益を除いた営業利益	1,545	82
金利スワップ取引などの 評価損益	△ 680	△ 802
営業利益	865	△ 720

・貸倒引当金や残価損失引当金を積み増した影響により、減益

持分法投資損益



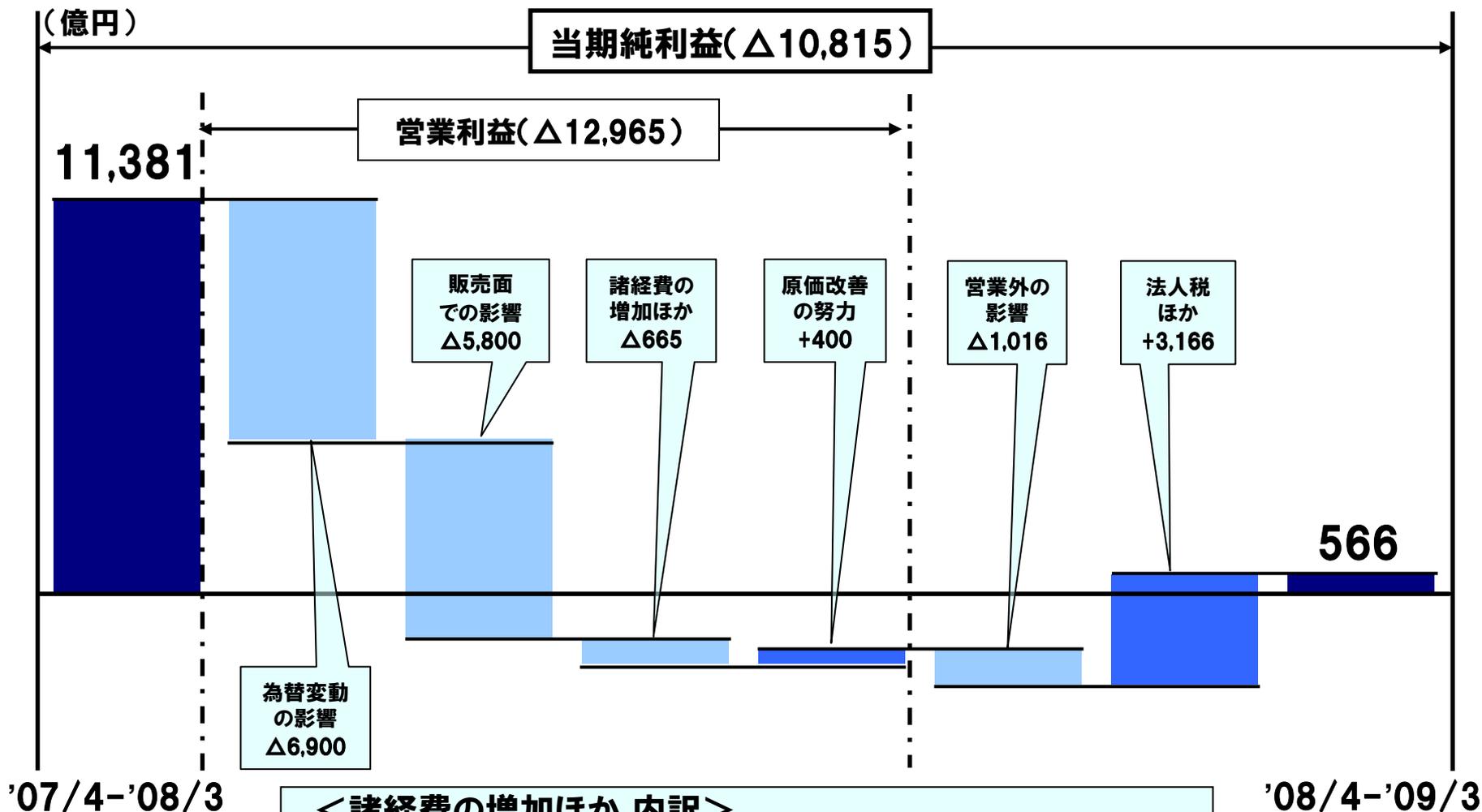
・主に、国内の持分法適用会社損益の減少により、減益

单独決算要約(日本基準)

(単位:億円)

	当期 ('08/4-'09/3)	前期 ('07/4-'08/3)	増減	
売上高	92,784	120,792	△ 28,008	△23.2%
営業利益	△ 1,879	11,086	△ 12,965	-
経常利益	1,825	15,806	△ 13,981	△88.4%
当期純利益	566	11,381	△ 10,815	△95.0%

単独当期純利益増減要因



<諸経費の増加ほか 内訳>

研究開発費の減少.....	+487	減価償却費および.....	△208
		設備関連費用	
労務費の減少.....	+298	その他.....	△1,242

1. '09年3月期 実績

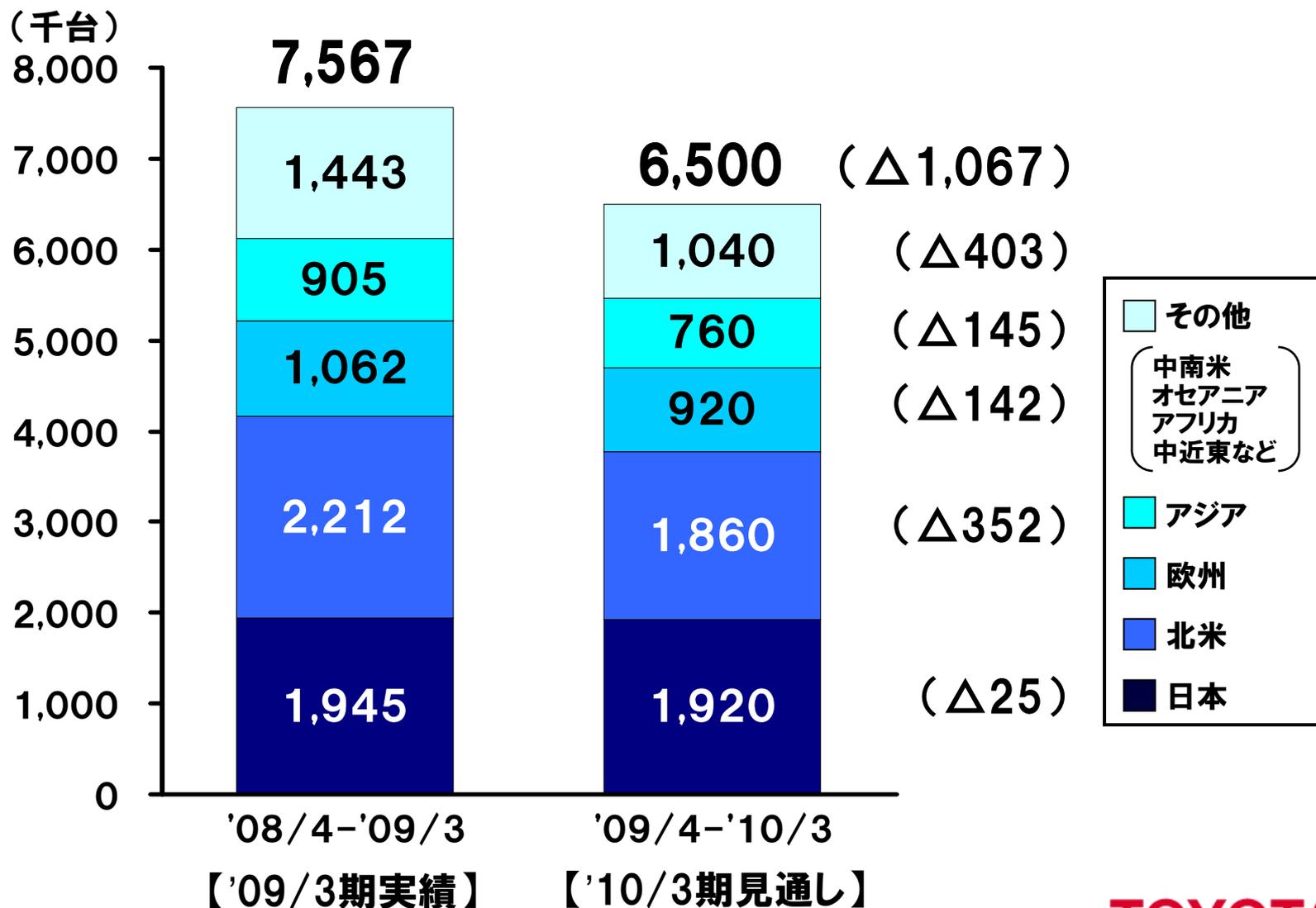
2. '10年3月期 見通し

3. '10年3月期 緊急収益改善の取り組み

4. 今後の方向性

5. 株主還元

'10年3月期見通し: 連結販売台数



'10年3月期見通し:連結決算

15

(単位:億円)

	'10/3期見通し ('09/4-'10/3)	'09/3期実績 ('08/4-'09/3)	増 減
売上高	165,000	205,295	△ 40,295
営業利益	△ 8,500	△ 4,610	△ 3,890
税金等調整前 当期純利益	△ 8,500	△ 5,604	△ 2,896
当期純利益 ※	△ 5,500	△ 4,370	△ 1,130

※'10/3期見通しの「当期純利益」は、'09/3期までの「当期純利益」と同じ内容です。

為替レート	ドル	95円	101円	6円の円高
	ユーロ	125円	144円	19円の円高

TOYOTA

'10年3月期見通し増減要因[vs'09/3期実績](連結決算) 16

(単位:億円)

営業利益

'09/3期実績('08/4-'09/3)		△ 4,610
減益要因	台数・構成等	△ 8,000
	為替変動の影響	△ 4,500
	小計	△ 12,500
増益要因	原価改善の努力	+ 3,400
	固定費の削減	+ 4,600
	その他	+ 610
	小計	+ 8,610
合計		△ 3,890
'10/3期見通し('09/4-'10/3)		△ 8,500

緊急収益改善
8,000億円

1. '09年3月期 実績

2. '10年3月期 見通し

3. '10年3月期 緊急収益改善の取り組み

4. 今後の方向性

5. 株主還元

1台でも多くお客様に喜ばれるクルマをお届け

①多くの環境対応車を持つ強みを最大限発揮

- ・今年度中に、新型HV車を国内4車種、海外3車種投入
- ・各国の環境対応車普及政策を活用した拡販

②各地域のお客様ニーズにきめ細かく対応した 特別仕様車の投入

'10年3月期 緊急収益改善の取り組み

『原価改善:3,400億円』

緊急VA活動

- ・対象車種数拡大
(15→50車種)

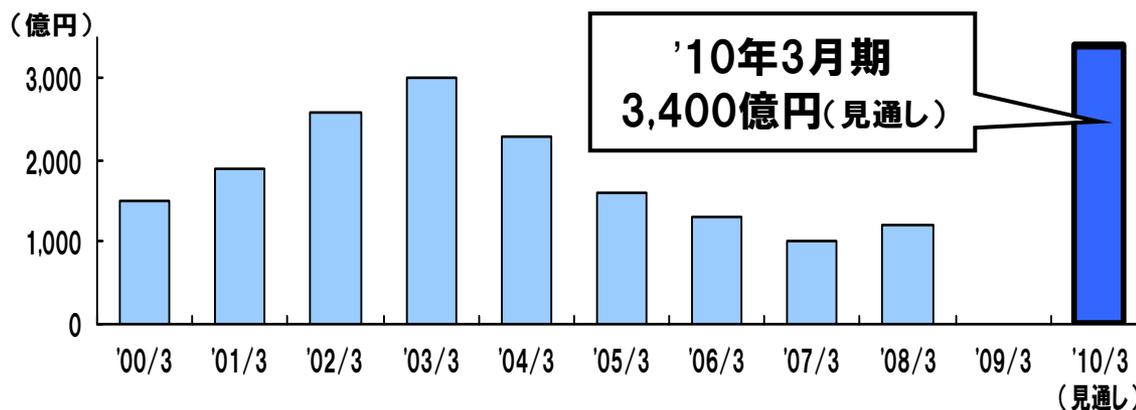
工場原価改善

- ・保全費の効率化などによる原価低減

新モデル切替に伴う原価改善

- ・VI活動の成果を実現

原価改善の推移*



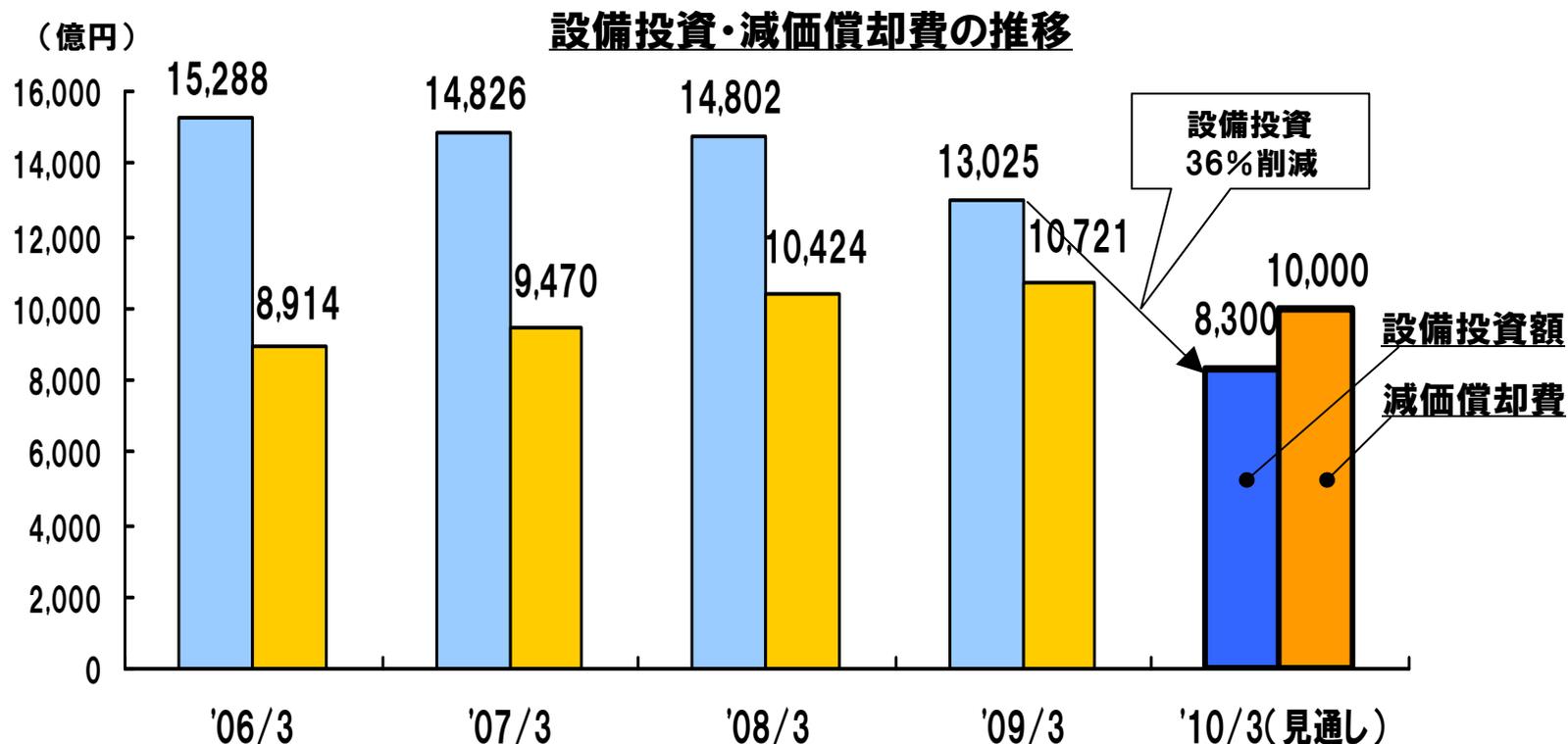
*原材料価格変動の影響を含む

'10年3月期 緊急収益改善の取り組み

『固定費の削減：4,600億円』

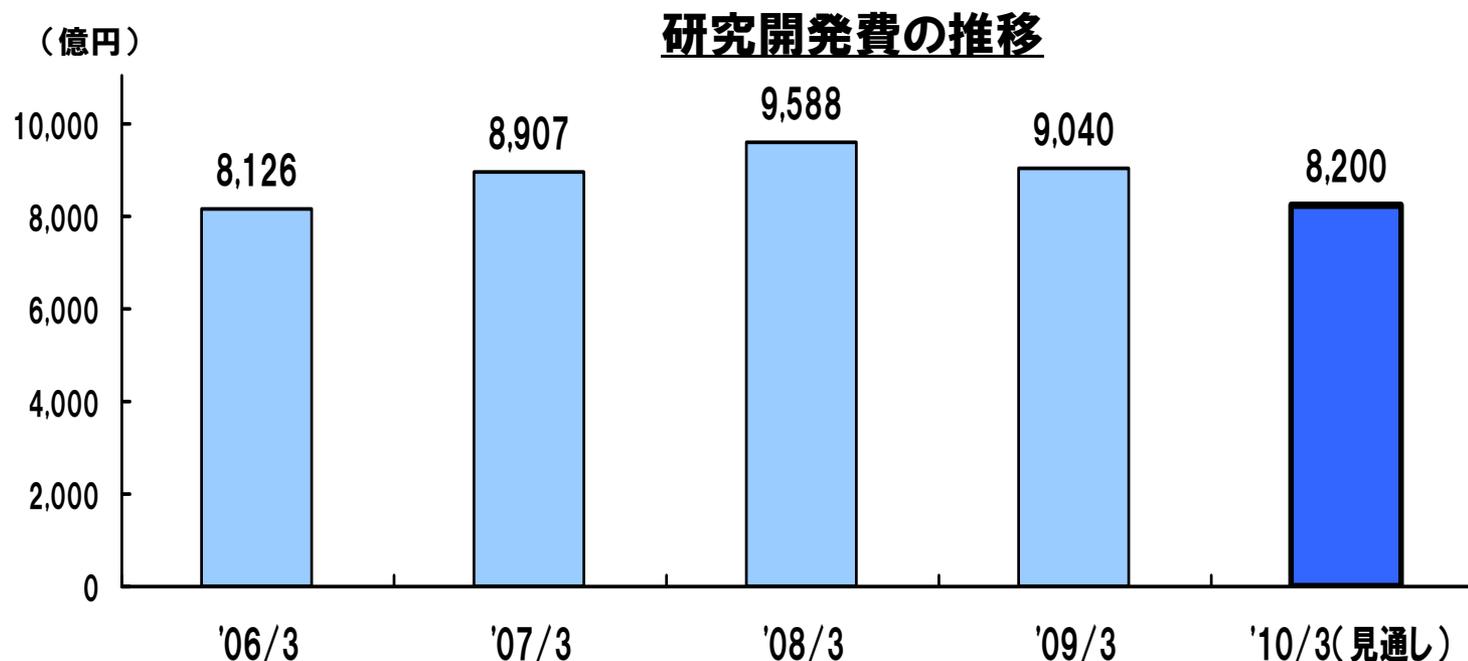
① 設備投資

'09/3期比36%減の8,300億円
⇒減価償却費 700億円減



②研究開発費

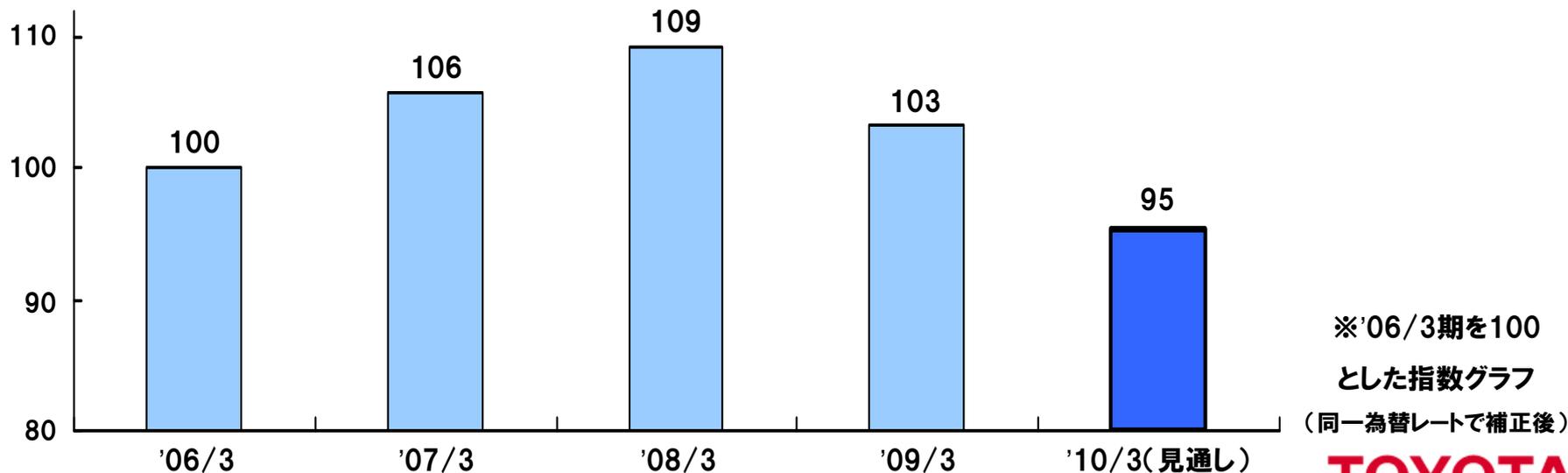
- ・環境・エネルギー・安全技術に関する先行・先端開発を一層推進
- ・開発効率化により費用を低減



③一般経費・販売費・労務費他

- 一般経費：出張費用など各種費用の全面見直し
- 販売費：販売施策に合わせた重点的・効率的投入
- 労務費：ワークシェアリング導入などにより、雇用の安定と労務費効率化を両立

一般経費・販売費・労務費他の推移※



1. '09年3月期 実績

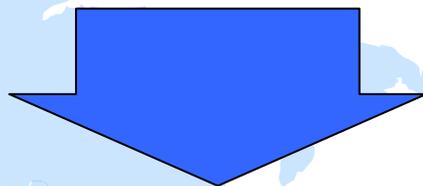
2. '10年3月期 見通し

3. '10年3月期 緊急収益改善の取り組み

4. 今後の方向性

5. 株主還元

各地域のお客様ニーズをきめ細かく把握



需要構造変化に対応した商品の造り込み

- ・商品軸：コンパクト車・HV車にシフト
- ・地域軸：資源国・新興国にシフト

お客様目線で、
「良質で、廉価な、魅力ある商品」を提供

- ・コンパクト車・HV車の原価の造り込み
- ・次世代環境・エネルギー・安全技術の早期商品化
- ・外部環境の変化にも柔軟に対応できる、
効率的な開発・生産・販売体制の構築

お客様目線で、
「良質で、廉価な、魅力ある商品」を提供

- ・コンパクト車・HV車の原価の造り込み
- ・次世代環境・エネルギー・安全技術の早期商品化
- ・外部環境の変化にも柔軟に対応できる、
効率的な開発・生産・販売体制の構築

お客様目線で、
「良質で、廉価な、魅力ある商品」を提供

- ・コンパクト車・HV車の原価の造り込み
- ・次世代環境・エネルギー・安全技術の早期商品化
- ・外部環境の変化にも柔軟に対応できる、
効率的な開発・生産・販売体制の構築

1. '09年3月期 実績

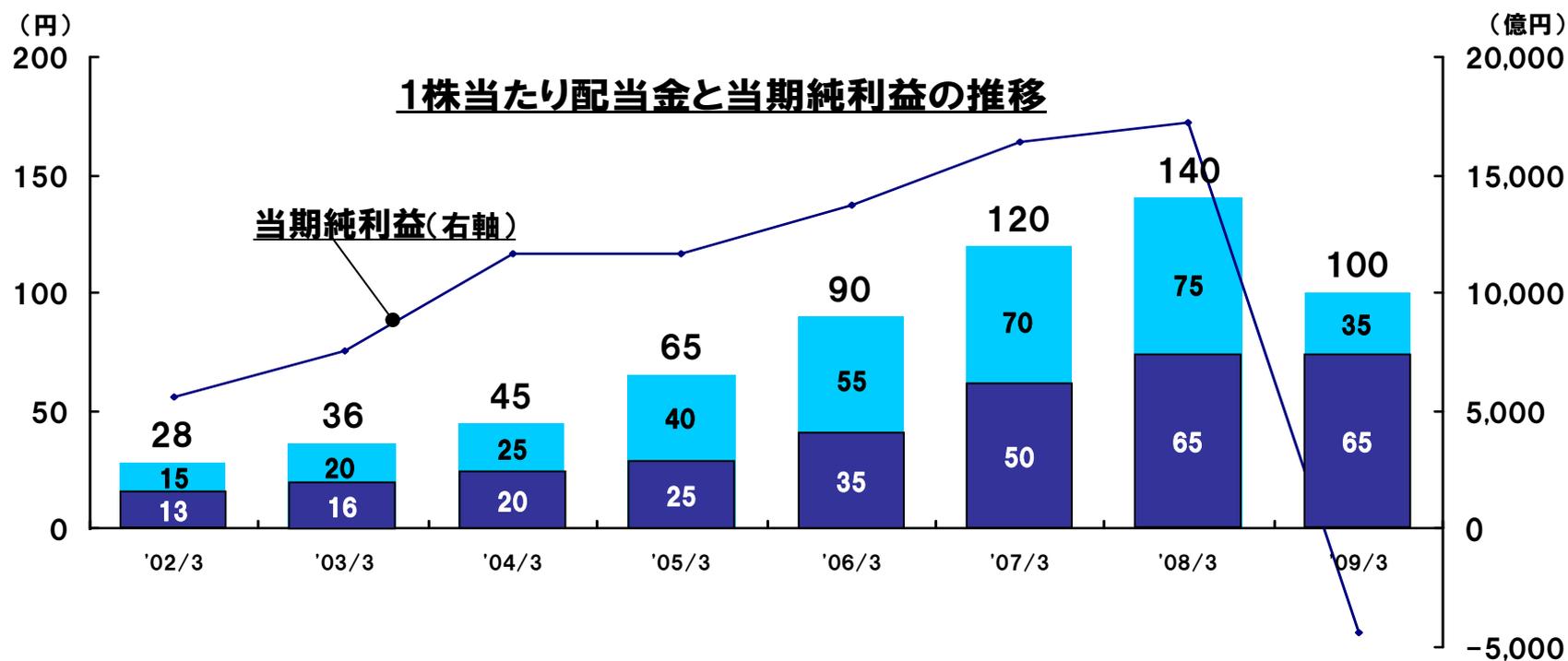
2. '10年3月期 見通し

3. '10年3月期 緊急収益改善の取り組み

4. 今後の方向性

5. 株主還元

配当金(年間)：1株につき100円
(配当金総額：3,135億円)



お客様第一・現地現物・商品魅力向上の
取り組みと需要構造変化への対応

普遍的に取り組む足元固め

品質

原価

人材

緊急課題への取り組み

【ご参考】**'10年3月期見通し:台数等(トヨタ・レクサス)**

		'10/3期見通し ('09/4-'10/3)	'09/3期実績 ('08/4-'09/3)
生産	国内	2,940 千台	3,393 千台
	海外	3,360	3,710
	合計	6,300	7,103
国内販売		1,350	1,340
輸出		1,660	2,139
海外現地販売		5,350	6,064
住宅		4,400 戸	4,335 戸

【ご参考】**'10年3月期見通し: 単独決算**

(単位: 億円)

	'10/3期見通し ('09/4-'10/3)	'09/3期実績 ('08/4-'09/3)	増 減
売上高	78,000	92,784	△ 14,784
営業利益	△ 6,300	△ 1,879	△ 4,421
経常利益	△ 3,700	1,825	△ 5,525
当期純利益	△ 1,800	566	△ 2,366

2009年3月期 決算説明会



トヨタ自動車株式会社
2009年5月8日